

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2016
第8回恵比寿映像祭

動いている庭

Garden in Movement



— 第2弾リリース！出品作家、作品詳細版 —

平成28年2月11日(木・祝) - 2月20日(土)

[会期中無休]

会場 | ザ・ガーデンホール、ザ・ガーデンルーム、恵比寿ガーデンシネマ、
日仏会館、STUDIO38、恵比寿ガーデンプレイスセンター広場 ほか

東京都写真美術館

目次 Contents

- 目次／第8回恵比寿映像祭とは？、会場について … 2
- テーマ「動いている庭」、ジル・クレマンについて … 3
- テーマ解釈の視点／見どころ① … 4
- テーマ解釈の視点／見どころ②③ … 5
- テーマ解釈の視点／見どころ④ … 6
- フェスティバルの全体像／展示、上映 … 7
- フェスティバルの全体像／オフサイト展示、ライブ・イベント、シンポジウム … 8
- フェスティバルの全体像／ラウンジトーク、地域連携、ガイドツアー … 9
- 展示出品予定作家一覧 … 10
- 開催概要／恵比寿映像祭に関するお問い合わせ … 12

第8回恵比寿映像祭とは？

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions

恵比寿映像祭は、現代美術や劇映画、ドキュメンタリー、実験映画やビデオ・アート、メディアアートのほか、ダンスや演劇、音楽など、幅広いジャンルを横断的に紹介してきたアートと映像のフェスティバルで、今回で第8回目を迎えます。

会場について

Venue

東京都写真美術館の改修工事による休館に伴い、昨年度と同様、ザ・ガーデンホールやザ・ガーデンルーム、ガーデンプレイスタワー棟38階 アートスペースSTUDIO38、日仏会館ほか、2015年3月にオープンした恵比寿ガーデンシネマなどの複数会場に、テーマを体現する様々な作品を集め開催いたします。また恵比寿近郊の文化施設やギャラリーと連動し、地域に根差した地域連携プログラムを展開してまいります。



① ザ・ガーデンホール 展示 ラウンジトーク

東京都目黒区三田1-13-2恵比寿ガーデンプレイス内

② ザ・ガーデンルーム イベント

東京都目黒区三田1-13-2恵比寿ガーデンプレイス内

③ STUDIO38 展示

東京都渋谷区恵比寿4-20-3
恵比寿ガーデンプレイスタワー38F

④ 恵比寿ガーデンプレイスセンター広場 オフサイト展示

東京都渋谷区恵比寿4-20恵比寿ガーデンプレイス内

⑤ 恵比寿ガーデンシネマ 上映 展示

東京都渋谷区恵比寿4-20-2恵比寿ガーデンプレイス内

⑥ 日仏会館ホール・ギャラリー 展示 シンポジウム

東京都渋谷区恵比寿3-9-25

⑦ 地域連携プログラム

恵比寿地域文化施設およびギャラリーほか

公益財団法人日仏会館・日仏メディア交流会、恵比寿ガーデンシネマ、NADiff a/p/a/r/t、MEM、G/Pgallery、amu、waitingroom、伊東建築塾、MA2Gallery、NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT / エイト]、MuCuLスタジオ、GALLERY工房親、AL・TRAUMARIS

動いている庭 Garden in Movement

災害や開発などにより、人間をとりまく自然環境が刻々と変化している現在、人と自然との新しい関係性をいかに見いだすかが問われています。

こうした人と自然の関係を古来より結び続けてきた技術に「庭」があります。庭とは、一定の枠組みのなかに植物などを配した、人間の想像力がうみだす空間芸術であると同時に、自然の創出力によってつくりだされるものです。フランスの思想家・庭師であるジル・クレマンは、荒れ地における植物のふるまいをモデルケースに、「動いている庭」に人と自然のあり方を見いだしました。そこでは、人間のみが中心なのではなく、むしろ自然がつくりあげていく世界像が描かれています。

第8回恵比寿映像祭では、この「動いている庭」というコンセプトを出発点とし、現代社会を、日々変容する庭ととらえ直します。さまざまな映像作品やメディア表現を通じ、文字どおりの自然のみならず、人間がうみだしたテクノロジーやめまぐるしく変化する都市環境、不可視のネットワーク社会などといった、現代社会における自然というべき事象が、今日的なヴィジョンとして立ち現れてくるでしょう。人間中心ではなく、むしろ自然とともにつくりあげていく世界像とは？—「動いている庭」という庭の新しい解釈を手掛かりに、人間をとりまく自然に目を向けながら、現代のイメージ世界を旅してゆきます。

〈荒れ地とは、人間の力が自然の前に屈したことを示すものだった。
けれども違う見かたをしてみればどうだろう？〉¹

—ジル・クレマン

¹ ジル・クレマン『動いている庭：谷の庭から惑星という庭へ』山内朋樹訳、みすず書房、2015年
恵比寿映像祭テーマ「動いている庭」は、同名タイトルの著書(Gilles Clément, *Le Jardin en mouvement*, Paris, Pandora, 1991.)より引用されている。



ジル・クレマン《アンドレ・シトロエン公園》1986-94
Photo : Tomoki Yamauchi

ザ・ガーデンホールにてジル・クレマン氏の 思想と活動をパネル展示にて紹介します。

ジル・クレマン

1943年フランス・アンドル県生まれ。庭師、修景家、小説家など多くの肩書きをもつ。生物全般、とりわけ植物の生態に造詣が深く、庭に植物の動きをとり入れ、その変化と多様性を重視する手法はきわめて特異なもの。代表的な庭・公園に、アンドレ・シトロエン公園(パリ、1986-94)、レイヨルの園(レイヨル=カナデル=シュル=メール、1989-94)アンリ・マティス公園(リール、1990-95)など。主な著作に『動いている庭』(1991/邦訳:山内朋樹、みすず書房、2015)、『惑星という庭』(1999)、『第三風景宣言』(2004)ほか。

テーマ解釈の視点

～ 「アート&映像」×「動いている庭」によって浮かび上がるオルタナティブな世界像とは？ ～

見どころ ①

視点と感覚を拡張する。人間(=自己)中心でなく、自然(=他者)とともにつくる世界とは？ 私たちの住む世界は、人間だけが作り出しているのでしょうか？ 視点を拡張し、また視覚を嗅覚や聴覚に置き換え世界を認識することで、自然(=他者)の存在と視点が浮かび上がってきます。人間(=自己)中心でなく、自然(=他者)とともにつくる世界像とは？ 恵比寿に出現した「動いている庭」を散策しながら探求します。

ガーデンプレイスセンター広場／オフサイト展示



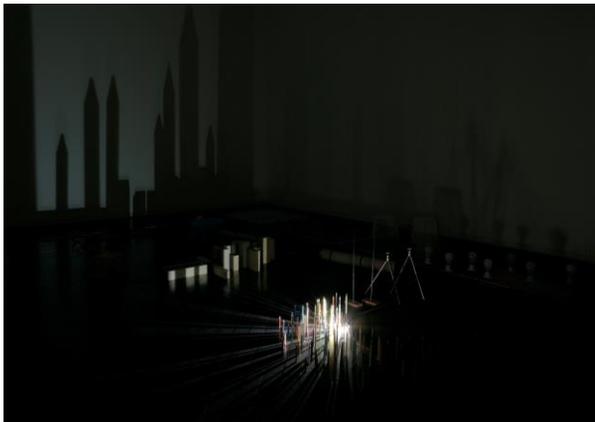
中谷芙二子 《霧の庭 “ルイジアナのために”》

1970年の大阪万博でペプシ館パビリオンを人工霧で覆ったプロジェクト以来、科学者やエンジニアと協働し「霧の作品」を発表してきた中谷芙二子。

1984年のルイジアナ国際河川博覧会の「水の彫刻」コンペに入選しながら実現しなかった6台の大型ダンプカーによる“Louisiana Dump”の恵比寿バージョンを第8回恵比寿映像祭にて披露します。環境条件を鋳型に、風がままに掘っていく「霧の彫刻」は、切り取られた自然の具体的な一部としてたちあられてきます。

《渦の太鼓》金沢中央公園1982[参考図版] Photo © F. Nakaya

日仏会館ギャラリー／展示



クワクボリョウタ 《風景と映像》

光のない部屋の床にならべられたバケツや鉛筆などの日用品の間を、LEDライトをつけた鉄道模型がゆっくり通り抜けていくと、まるで車窓から外の景色を眺めているかのように町並みや自然が動き出す。実在しない風景をつくりだす光と影によるインスタレーション《10番目の感傷(点・線・面)》で知られるクワクボリョウタ。第8回恵比寿映像祭では、テーマ「動いている庭」にあわせた新作《風景と映像》を日仏会館ギャラリーにて披露します。

クワクボリョウタ《10番目の感傷(点・線・面)》2010[参考図版]
Courtesy Tochigi Prefectural Museum of Fine Arts
Photo: Shizune Shiigi

ザ・ガーデンホール／展示



虫の足音を爆音で聴く《Bug's Beat》。新しい音楽体験を可能にするメディアパフォーマンスであり、認識可能な世界での常識に挑戦する。

佐々木有美 + ドリタ《Bug's Beat》2016



アリジゴクの中で砂と岩絵の具が静かに移動することで生み出される自然の創造力の庭。

銅金裕司《シルトの岸边～動く絵》2010 [参考図版]
Courtesy art space kimura ASK?

STUDIO38／展示



マレーシアに生息する固有種を模した機械仕掛けのランは、開発により土地や固有の文化を失う宿命の先住民たちのメタファーである。

クリス・チョン・チャン・ファイ《END74 Pholidota sigmatochilus》
「固有種」シリーズより、2015



嗅覚体験が主役となるインスタレーション。小壇にははまれた複数の香りを嗅ぎ分けながら、目には見えないイメージの庭での散策を楽しめる。

上田麻希《嗅覚のための迷路 vol.1》2013

テーマ解釈の視点

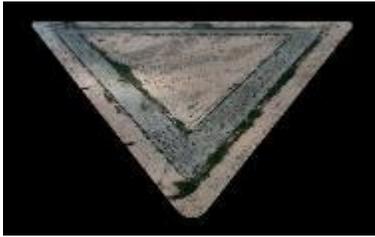
～ 「アート&映像」×「動いている庭」によって浮かび上がるオルタナティブな世界像とは？ ～

見どころ ②

現代社会・都市空間・ネットワーク社会という庭を舞台に ——

都市やネット上の空間に自発的に発生する現象によって形成される現代社会の様相を「動いている庭」とみたと、多様な映像表現を通じて考察していきます。中東や中国出身の現代美術作家からネットアートのパイオニア、日本のビデオアートの先駆者ら、その他多様な作家たちがそれぞれの表現を通じて、それぞれの「庭」の動いている様をあらわしてくれます。

ザ・ガーデンホール／展示



ジャンーン・アル=アーニ Jananne AL-ANI

湾岸戦争時の空撮映像が示した非人間性をきっかけに、俯瞰的空撮風景に関するリサーチを各地で重ねてきた。一見無人と思われるような地表の抽象的な風景に隠され不可視化された現実を作品により提示する。

ジャンーン・アル=アーニ《グラウンド・ワークスⅢ》2013



JODI (ジョディ)

1995年にjodi.orgを開始し、「ノーストーリー」「ノーコンテンツ」を指針とするネットアートの先駆者JODI。作品によりインターネットやゲームの属性や記号的意味を解体し、その抽象性や物質性を顕在化させる。

JODI《GEOGOO》2008



ジョウ・タオ ZHOU Tao

巨大なLED広告の設置によって一晩にして青に染められた中国・広州の広場。反政府デモへの武力弾圧の最中にあるバンコクの広場。錆びた鉄を含む水が、赤い泉のように地表に溜まる中国南部の鉱山。撮影行為を日々の生活と混在させることで、身体の振る舞いと空間の関係を映し出す。

ジョウ・タオ《青と赤》2014
Courtesy the artist and Vitamin Creative Space



ビデオアース東京 (伊藤義彦、大谷正広、中島興 ほか)

美観化されゆく川崎大橋の下にできた公共空間に存在する私的な空間にビデオという媒体で介入し、何ができるのか探求した実験的作品。撮影行為によって始めて可能となった他者との出会いが描かれている。

ビデオアース東京《橋の下から》1974

見どころ ③

「ランドアート」×「映像」の関係性を再考する ——

1960年末から70年代に出現した潮流、ランドアートは、作品を取り巻く自然環境によって刻々変化し、美術館のコレクションのように保存することは不可能です。人が容易に行けない辺境地に制作され、無限に変化する作品の姿を確認できるのは映像やインタビューによる作品や記録だけです。50年代頃より利用可能となった映像というメディアとランドアートの関係性を第8回恵比寿映像祭では展示・上映・シンポジウムにて横断的に検証します。

ザ・ガーデンホール／展示、恵比寿ガーデンシネマ／上映、日仏会館ホール／シンポジウム



■ロバート・スミツソン
《マンハッタン島を周遊する浮島》2005／シングルチャンネル・ビデオ … 展示

■ジェーン・クロフォード&ロバート・フィオーリ
《ランダウン》1994／シングルチャンネル・ビデオ … 展示

★ジェームズ・クランプ 《トラブルメイカーズ ランドアートの話》2015
／72分／英語(日本語字幕付) … 上映

■「ランドアートの話」
平成28年2月13日(土)17:30-19:30 日仏会館ホール … シンポジウム

★右クレジット参照

テーマ解釈の視点

～ 「アート&映像」×「動いている庭」によって浮かび上がるオルタナティブな世界像とは？ ～

見どころ④

テーマ「動いている庭」のもと第8回も国際色豊かに魅力的なプログラムを展開

ヨーロッパ実験映画のバイオニア、シャンタル・アケルマン遺作のほか、ランドアートを再考するジェームズ・クランプの新作ドキュメンタリーをプレミア上映します。さらに、ベン・ラッセル特集上映及び一夜限りの映像パフォーマンスを開催。意欲的コンピレーションは3プログラムのほか、ベルリン国際映画祭(2012)で上映されたリー・ブン・イム監督《12人姉妹》やリティ・パン監督《フランスは我等が故国》によりカンボジアの社会的記憶の断片をたどります。

恵比寿ガーデンシネマ / 上映

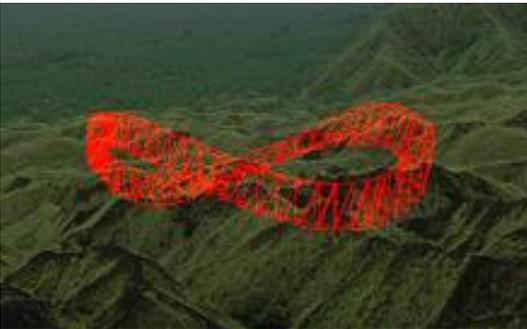


シャンタル・アケルマン《No Home Movie》2015
Photo © : Doc & Film International

ヨーロッパ実験映画の先駆、シャンタル・アケルマン 遺作《No Home Movie》ジャパンプレミア上映

アケルマンの創作の原点であり、アウシュヴィッツの生還者である年輩いた母・ナタリアの日常が「家」を背景に映し出される。それとは対照的に挿入されるイスラエルの乾いた土地の風景。「母」、「家」という監督の私的な主題を扱いながら、人間がもつ根源的感情が浮かび上がってくる。
■追悼シャンタル・アケルマン《No Home Movie》ジャパンプレミア

第19回カイエ・デュ・シネマ週間「シャンタル・アケルマン追悼特集」
2016年2月5日(金)～7日(日)、12日(金)～14日(日)
アンステイチュ・フランセ東京(主催)と運動して活動の軌跡を辿ります。
協力: アンステイチュ・フランセ日本



ベン・ラッセル《われわれが享受している素晴らしいもの》2015

実験的な映像作品で、美術界と映画界を横断する ベン・ラッセル。注目の作品とともにパフォーマンスも！

パリ・ポンピドゥーセンターやロッテルダム映画祭など数多くの美術館や映画祭で展示・上映されるベン・ラッセル。現代のユートピアの限界に向き合う三部作のほか、作家による一夜限りの音と映像によるパフォーマンスを特別開催します。

■ベン・ラッセル「快樂の園」三部作 /
—映像パフォーマンス+スペシャル上映

「現代という庭」へ多角的にアプローチする意欲的な コンピレーションの3プログラム！

■不在の庭—そして、誰もいなくなったら

人々の姿が消えた景色の中から何が見えてくるのか？ 荒地の「風景論」

(左上) ロバート・ノース & アントワネット・デ・ヨング《木と土》2015

(右上) マリナ・ヨティ《来世のごとく》2014

■花園, 林, 城市: 現代中国からのビデオアート

環境と人の身体・精神との関係性を映像を通じ探求する

(左下) マ・チウシャ《眠り姫》2015

Courtesy the artist and Beijing Commune

■荒地の先へ—短編アニメーション

自然と人間の関係、作家と生み出されるアニメーションの関係を問う

(右下) 小野ハナ《such a good place to die》2015

植民地化により出合った異文化が、衝突・融合した土壌から 生まれたカンボジア映画黄金期の作品

フランスで見つかり、ベルリン国際映画祭(2012)で上映されたファウンド・フィルム。20年に渡る内戦の中生き残った数少ないカンボジア映画黄金期の作品をHD化して上映します。

■内戦を生き延びたカンボジア映画、リー・ブン・イム監督《12人姉妹》

協力: 株式会社東京光音、大阪アジアン映画祭、Berlinale Forum



リー・ブン・イム《12人姉妹》1968
Courtesy Berlinale Forum

フェスティバルの全体像

～ どこで? どんな? 誰の作品が? どんな議論が? 展開されるかをご紹介します ～



第8回恵比寿映像祭では、「動いている庭」というテーマのもと、多様な表現によって、視点を拡張し、また視覚を嗅覚や聴覚に置き換え世界を認識することで、自然(=他者)の存在と視点を浮かび上がらせます。また、現代社会という「庭」における、都市やネット上の空間に自発的に発生する現代の自然ともいふべき事象を見つめ直し、人間(=自己)中心でなく、自然(=他者)ともにつくるオルタナティブな世界像を、恵比寿に出現した「動いている庭」を散策しながら探求します。

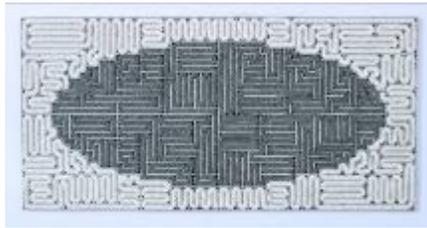
展示

ザ・ガーデンホール/入場無料

自然の創造力を提示するバイオアートの銅金裕司、虫の足音を爆音で聞かせる佐々木有美 + ドリタ、自然の摂理を提示するピョトル・ボサツキ、都市におけるアースワークを展開させる鈴木ヒラク、俯瞰的空撮風景を作品主題におき国際的評価の高いジャーナール・アル=アーニ、ランドアートの代表的存在ロバート・スミッソンやネットアートのパイオニアのJODI、オーバーハウゼン国際短編映画祭で注目を得た新進中国作家ジョウ・タオなどの多彩な才能が展示会場を彩ります。さらに日仏会館には、クワクポリヨウタの新作《風景と映像》が登場します。



ロバート・スミッソン《マンハッタン島を周遊する浮島》2005
Estate of Robert Smithson, Courtesy James Cohan
Gallery, New York/Shanghai and Electronic Arts
Intermix (EAD), New York.



ピョトル・ボサツキ《ラビリス・フィルム》2014
Courtesy Stereo Gallery, Warsaw



鈴木ヒラク《GENGA #001 - #1000 (video)》2009
Photo: Kuniya Oyamada ©Hiraku Suzuki

[出品予定作家] ジル・クレマン(パネル紹介)/ジャーナール・アル=アーニ/ピョトル・ボサツキ/鈴木ヒラク/ウォー・ピクルス・プロジェクト/銅金裕司/クリス・チョン・チャン・ファイ/ジョウ・タオ/JODI/佐々木有美 + ドリタ/ロバート・スミッソン/ジェーン・クロフォード&ロバート・フィオーリ/ビデオアース東京(伊藤義彦、大谷正広、中島興 ほか)/上田麻希/山内朋樹/クワクポリヨウタ/藤木淳

上映

恵比寿ガーデンシネマ/前売: 500円 当日: 1,000円/定員93名/自由席/入場整理番号付

ヨーロッパ実験映画の先駆、ジャンタル・アケルマン遺作《No Home Movie》、ジル・クレマンのドキュメンタリー《動いている庭》プレミア上映! そのほか、現代のユートピアの限界を問うベン・ラッセルの三部作上映及び一夜限りの映像パフォーマンスを開催。短編アニメ「荒れ地の先へ」には2015年カンヌ国際映画祭短編部門でパルムドールを受賞したエリィ・ダーガー《ウェーブ '98》も。ベルリン国際映画祭(2012)で上映されたリー・ブン・イム監督《12人姉妹》やリティ・バン監督《フランスは我等が故国》によりカンボジアの社会的記憶の断片をたどります。また、TBS主催の映像祭DigiCon6 ASIAよりアジア各国の作品や、ブラジルの80年代ビデオ作品等、多彩なリンクプログラムも紹介します。



澤崎賢一《動いている庭》2016
Photo: Kenichi Sawazaki



エリィ・ダーガー《ウェーブ '98》2015



リティ・バン《フランスは我等が故国》2015



ベン・ラッセル《アトランティス》2014



ウー・キョンミン《ジョニー・エクスプレス》2014

[上映プログラム] 追悼ジャンタル・アケルマン 《No Home Movie》 ジャパンプレミア/ジル・クレマン ドキュメンタリー《動いている庭》 ワールドプレミア/《トラブルメイカーズ ランドアートの話》 アジアプレミア/不在の庭—そして、誰もいなくなったら/荒れ地の先へ—短編アニメーション/花園, 林, 城市: 現代中国からのビデオアート/ベン・ラッセル「快樂の園」三部作/ベン・ラッセル 映像パフォーマンス《われわれが享受している素晴らしいもの》+スペシャル上映/内戦を生き延びたカンボジア映画《12人姉妹》/ふたつの文化—リティ・バン《フランスは我等が故国》/80年代Videobrasil傑作選/躍動するアジア—DigiCon6 ASIA

第8回恵比寿映像祭「動いている庭」の全体像

～ どこで? どんな? 誰の作品が? どんな議論が? 展開されるかをご紹介します ～

オフサイト展示

恵比寿ガーデンプレイス広場/入場無料



《渦の太鼓》金沢中央公園1982[参考図版] Photo © F. Nakaya

中谷芙二子 《霧の庭“ルイジアナのために”》

1970年の大阪万博でペプシ館パビリオンを人工霧で覆ったプロジェクト以来、科学者やエンジニアと協働し「霧の作品」を発表してきた中谷芙二子。

1984年のルイジアナ国際河川博覧会の「水の彫刻」コンペに入選しながら実現しなかった6台の大型ダンプカーによる“Louisiana Dump”の恵比寿ヴァージョンを第8回恵比寿映像祭にて披露します。切り取られた自然の具体的な一部として、環境条件を鋳型に、風がきまままに掘っていく「霧の彫刻」が、昼と夜の光によって変幻していく様子をお楽しみ下さい。

ライブ・イベント

ザ・ガーデンルーム

前売:1,500円 当日:2,000円/定員 150名/自由席/入場整理番号付



SjQ++ あいちトリエンナーレ2013[参考図版]

動いている庭—ライブ編

平成28年2月19日(金)開場17:30/開演18:00[終演20:00予定]

新しい即興音楽をうみだすSjQ++、ポストヒップホップ世代の要注目シンガーソングライター入江陽とアーティスト銅金裕司による奇跡のコラボレーションのほか、プログラミング表現の可能性を拡張していく古館健、The SINE WAVE ORCHESTRAによるサイン波を使った参加型パフォーマンスが実現します。



平井優子《猿嬌-The face of strangers》2014[参考図版]
Photo: Akiko Nogami

動いている庭—パフォーマンス編:

《猿嬌-The face of strangers- Hybrid version》平井優子+山内朋樹+古館健

平成28年2月20日(土)開場15:30/開演16:00[終演18:00予定]

庭を再現した舞台のもと、ダンサー平井優子を中心に、研究者・庭師であり、ジル・クレマン『動いている庭』の翻訳者でもある山内朋樹、アーティスト/プログラマー古館健が協働し、伝承民話「猿嬌」を描き出すパフォーマンスが繰り広げられます。協力:原瑠璃彦 sonihouse

シンポジウム

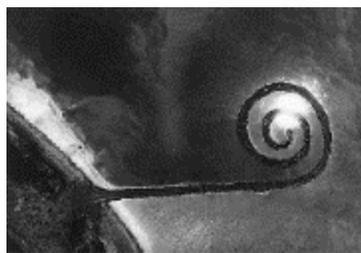
日仏会館ホール

前売:350円 当日:600円/定員 150名/自由席/入場整理番号付

日仏会館にて3日間にわたり、国内外より監督、アーティスト、批評家、研究者が集い、庭園・公共広場からアヴァン・ガーデニング運動やランドアートまで幅広く議論するシンポジウムを開催します。



「小さな風景からの学び」から



Robert Smithson's *Spiral Jetty*, 1970. From *Troublemakers* © Gianfranco Gorgoni. Courtesy Getty Research Institute, Los Angeles



金坂健二《(屋上で水をやるジャック・スミス)》1961-1979

[日仏会館共催企画]ジル・クレマン
「動いている庭」をめぐって—庭と公共性
平成28年2月12日(金)17:30-19:30

乾久美子(建築家)/山内朋樹(庭師、庭園史研究者)/松井茂(情報科学芸術大学院大学准教授)/池村俊郎(日仏会館文化事業委員、帝京大学経済学部教授)/田坂博子(恵比寿映像祭キュレーター)

ランドアートの話

平成28年2月13日(土)17:30-19:30

平野千枝子(山梨大学准教授)/上崎千(慶應義塾大学アート・センター所員)/岡村恵子(恵比寿映像祭キュレーター)

庭=運動(アヴァン・ガーデニング)以後
平成28年2月14日(日)17:30-19:30

高祖岩三郎(批評家・翻訳家)/アンテク・ワルチャック(アーティスト)/いちむらみさこ(アーティスト)/田坂博子(恵比寿映像祭キュレーター)

第8回恵比寿映像祭「動いている庭」の全体像

～ どこで? どんな? 誰の作品が? どんな議論が? 展開されるかをご紹介します ～

ラウンジトーク

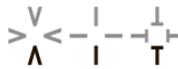
ザ・ガーデンホール 3階ラウンジ(無料)*印=日英/日中逐次通訳

会期中は、メイン会場のザ・ガーデンホールにて、出展作家自ら作品の概念や背景から近年の活動まで、カジュアルなスタイルでトークセッションを連日開催します。

- クリス・チョン・チャン・ファイ(展示出品作家) Chris CHONG Chan Fui (artist) *
- 銅金裕司、佐々木有美 + ドリタ(展示出品作家) DOGANE Yuji, SASAKI Yumi + Dorita (artists)
- ジョウ・タオ(展示・上映出品作家) ZHOU Tao (artist) *
- ジャナーン・アル＝アーニ(展示出品作家) Jananne AL-ANI (artist) *
- ピョトル・ボサツキ(展示出品作家) Piotr BOSACKI (artist) *
- 中島興(ビデオアース東京)(展示出品作家) NAKAJIMA Ko from Video Earth Tokyo (artist)
- クワクポリョウタ(展示出品作家) KUWAKUBO Ryota (artist)
- 鈴木ヒラク(展示出品作家) SUZUKI Hiraku
- 中ザワヒデキ[地域連携プログラム NADiff a/p/a/r/t] NAKAZAWA Hideki (artist)

地域連携

第3回恵比寿映像祭より実施している「地域連携プログラム」。恵比寿地域に点在する文化施設・ギャラリーと共に「動いている庭」のテーマを共有し、それぞれ独自の視点で個性あるプログラムを展開します。街を舞台に開催する第8回では、新たな参加施設が加わり、恵比寿の街が映像とアートで染まります。



参加予定施設:

公益財団法人日仏会館、日仏メディア交流会

恵比寿ガーデンシネマ

伊東建築塾

MA2Gallery

GALLERY工房親

MuCuLスタジオ

NADiff a/p/a/r/t

MEM

G/Pgallery

waitingroom

amu

AL、TRAUMARIS

NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT / エイト]

ガイドツアー

※参加無料/定員15名(先着順)/要整理券(詳しくは、公式ウェブサイト・チラシ等をご参照ください)

第7回より実施しているガイドツアー。今年も引き続き、映像祭のテーマ「動いている庭」というコンセプトとともに、各作品の背景をわかりやすく紐解きます。

①メイン会場とクワクポリョウタの新作インスタレーションを観る! ガイドツアー

[会場] ザ・ガーデンホール→日仏会館ギャラリー

②メイン会場から中谷美二子「霧の彫刻」、STUDIO38を巡る! ガイドツアー

[会場] ザ・ガーデンホール→センター広場→恵比寿ガーデンプレイスタワー38F STUDIO38

展示出品予定作家一覧

形式	作家・監督名(和)	作家・監督名(英)	国
展示	ジル・クレマン	Gilles CLÉMENT	フランス
展示	ジャンーン・アル＝アーニ	Jananne AL-ANI	イラク／イギリス
展示	ピョトル・ボサツキ	Piotr BOSACKI	ポーランド
展示	鈴木 ヒラク	SUZUKI Hiraku	日本
展示	ウォー・ピクルス・プロジェクト	WAR PICKLES Project	アメリカ
展示/ライブ	銅金 裕司	DOGANE Yuji	日本
展示	クリス・チョン・チャン・ファイ	Chris CHONG Chan Fui	マレーシア
展示/上映	ジョウ・タオ	ZHOU Tao	中国
展示	JODI(ジョディ)	JODI	香港
展示	佐々木 有美	SASAKI Yumi	日本
展示	ドリタ	DORITA	日本
展示	ロバート・スミッソン	Robert SMITHSON	アメリカ
展示	ジェーン・クロフォード&ロバート・フィオーリ	Jane CRAWFORD & Robert FIORE	アメリカ
展示	ビデオアース東京(伊藤義彦、大谷正広、中島興 ほか)	Video Earth Tokyo (ITO Yoshihiko, OTANI Masahiro, NAKAJIMA Ko and others)	日本
展示	上田 麻希	UEDA Maki	日本
展示	藤木 淳	FUJIKI Jun	日本
展示/ライブ	山内朋樹	YAMAUCHI Tomoki	日本
展示	クワクボ リョウタ	KUWAKUBO Ryota	日本
オフサイト展示	中谷 芙二子	NAKAYA Fujiko	日本
上映	シャンタル・アケルマン	Chantal AKERMAN	ベルギー／フランス
上映	澤崎 賢一	SAWAZAKI Kenichi	日本
上映	ジェームズ・クランプ	James CRUMP	アメリカ
上映	ビサネ・アルシャリフ & モハマド・オムラン	Bissane AL CHARIF & Mohamad OMRAN	フランス
上映	ロバート・ノース&アントワネット・デ・ヨング	Robert KNOTH & Antoinette DE JONG	オランダ
上映	マリナ・ヨティ	Marina GIOTI	ギリシャ
上映	オリヴァー・レスラー	Oliver RESSLER	オーストリア
上映	葉山 嶺	HAYAMA Rei	日本
上映	小野 ハナ	Onohana	日本
上映	若林 萌	WAKABAYASHI Moe	日本
上映	坂元 友介	SAKAMOTO Yusuke	日本
上映	ジョシー・マリス	Josseie MALIS	チリ／スペイン
上映	ケイレブ・ウッド	Caleb WOOD	アメリカ
上映	デリク・ウィッチャリー	Derick WYCHERLY	アメリカ
上映	エリィ・ダーガー	Ely DAGHER	レバノン
上映	水江 未来	MIZUE Mirai	日本
上映	チェン・ラン	CHENG Ran	中国
上映	グオ・ホンウェイ	GUO Hongwei	中国
上映	マ・チウシャ	MA Qiusha	中国
上映	ジャン・リャオユエン	ZHANG Liaoyuan	中国
上映	オラファー・エリアソン	Olafur ELIASSON	デンマーク／アイスランド
上映	アントン・ヴィドクレ&フー・ファン	Anton VIDOKLE & HU Fang	ロシア／中国
上映	ベン・ラッセル	Ben RUSSELL	アメリカ
上映	リー・ブン・イム	LY Bun Yim	カンボジア／フランス
上映	リティ・パン	Rithy PANH	カンボジア／フランス
上映	TV Viva(クラウジオ・パホーズ、クラウジオ・フェハリオ、エドゥアルド・オーメン)	TV Viva (Cláudio BARROSO, Claudio FERRARIO, Eduardo HOMEM)	ブラジル
上映	ジェラウド・アニャイア・メロ	Geraldo Anhaia MELLO	ブラジル
上映	ルシラ・メイレルス	Lucila MEIRELLES	ブラジル

上映	オリヤール・エレクトローニコ (マルセロ・マシャード、フェルナンド・メイレス、 パウロ・モレリ、ヘナト・バルビエリ)	Olhar Eletrônico (Marcelo MACHADO, Fernando MEIRELLES, Paulo MORELLI, Renato BARBIERI)	ブラジル
上映	ペドロ・ヴィエイラ	Pedro VIEIRA	ブラジル
上映	エデー・サントス	Eder SANTOS	ブラジル
上映	ハファエウ・フランサ	Rafael FRANÇA	ブラジル
上映	サンドラ・コグ	Sandra KOGUT	ブラジル
上映	ロベルト・ベルリネ	Roberto BERLINER	ブラジル
上映	幸 洋子	YUKI Yoko	日本
上映	マリエトウ	Marie TOH	シンガポール
上映	テッド・キキ	Ted KIKI	シンガポール
上映	ミッシェル・ウォン	Michelle WONG	シンガポール
上映	ツリーハウススタジオ(レイ・ウォン、オスカー・シェイ)	Treehouse Studio (WONG Ray, SHEIKH Oscar)	台湾
上映	シッパラッド・クロングラクサ	Sipparpad KRONGRAKSA	タイ
上映	頃安 祐良	KOROYASU Yousuke	日本
上映	フィーマン・ウィスマラ	Firman WIJASMARA	インドネシア
上映	水越 清貴	MIZUKOSHI Kiyotaka	日本
上映	ポウチョウチ	Po Chou CHI	台湾
上映	シェ・ツンリン	XIE Chenglin	中国
上映	シューレス・エリオット	Suresh ERIYAT	インド
上映	木島 彩矢香	KIHATA Sayaka	日本
上映	ウー・キョンミン	WOO Kyumgmin	韓国
ライブ	SjQ++	SjQ++	日本
ライブ	入江 陽	IRIE Yo	日本
ライブ	The SINE WAVE ORCHESTRA	The SINE WAVE ORCHESTRA	日本
ライブ	平井 優子	HIRAI Yuko	日本
ライブ	古舘 健	FURUDATE Ken	日本
ライブ	原 瑠璃彦	HARA Rurihiko	日本

開催概要 Outline



恵比寿映像祭
Yebisu International Festival for
Art & Alternative Visions

恵比寿映像祭とは年に一度、東京・恵比寿の地で、展示、上映、ライブ・イベント、トーク・セッション等を複合的に行い、映像分野における創造活動の活性化と優れた映像表現やメディアを、過去から現在、そして未来へといかに継承し発展させていくかという課題について、あらためて問い直し、対話を重ね、広く共有する場となることを目指す、ユニークなフェスティバルです。

- [名称] 第8回恵比寿映像祭 動いている庭
Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2016
Garden in Movement
- [会期] 平成28年2月11日(木・祝)～2月20日(土) [10日間・会期中無休]
- [時間] 10時～20時(最終日は18時まで)
- [会場] ザ・ガーデンホール、ザ・ガーデンルーム、恵比寿ガーデンシネマ、日仏会館、STUDIO38、恵比寿ガーデンプレイスセンター広場 ほか
- [料金] 入場無料 ※定員制の上映プログラム、イベント等については一部有料
- [主催] 東京都／東京都写真美術館・アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)／日本経済新聞社
- [共催] サッポロ不動産開発株式会社／公益財団法人日仏会館
- [後援] TBS／J-WAVE 81.3FM
- [協賛] 株式会社 資生堂／東京都写真美術館支援会員
- [寄付] 富士重工業株式会社
- [協力] アンスティチュ・フランセ日本／Culture.pl／KyotoDU／ぴあ株式会社／株式会社北山創造研究所／株式会社トリプルセブン・インタラクティブ／株式会社ロボット
- [公式HP] www.yebizo.com

恵比寿映像祭に関するお問い合わせ Contact

恵比寿映像祭担当(東京都写真美術館): 栗栖(くりす)

※ 報道・媒体関係者様のお問合せに限らせていただきます。
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-12 [東京都写真美術館リニューアル準備室]
電話:03-6206-9554 / FAX:03-6206-9550 / e-mail: yebizo_press@syabi.com

【プレスに関するお問合せ】 恵比寿映像祭プレス担当: 平(たいら)、大西(おおにし)
電話:090-1149-1111(平) 090-9621-5235(大西) / FAX:03-3468-8367 / e-mail: info@tmpress.jp

【広報用写真】 ※本リリースで使用している写真は広報用画像としてご用意しております。
①希望画像の作品名 ②貴媒体名 ③掲載予定時期を表記のうえ、上記のプレス担当者もしくは恵比寿映像祭担当者までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

報道関係者各位



第8回恵比寿映像祭 最新情報 NEWS
シャンタル・アケルマンの遺作《No Home Movie》
プレミア上映決定！
中谷芙二子の霧の彫刻作品展示のほか、
ランドアートを考察する多彩なプログラムを開催。

第8回恵比寿映像祭では、「動いている庭」というテーマのもと、多様な表現によって、視点を拡張し、また視覚を嗅覚や聴覚に置き換え世界を認識することで、自然（＝他者）の存在と視点を浮かび上がらせます。また、現代社会という「庭」における、都市やネット上の空間に自発的に発生する現代の自然ともいべき事象を見つめ直し、オルタナティヴな世界像を探求します。会期も近くなり、最新の出品作家及び作品が追加決定いたしましたので、最新ニュースと見どころをあわせてお知らせいたします。様々な映像表現が集まる貴重な10日間ですので、是非、貴媒体にてご紹介いただけますようお願いいたします。

NEWS 1

展示

**中谷芙二子の《霧の庭 “ルイジアナのために”》が
 恵比寿ガーデンプレイス広場に登場！**



《渦の太鼓》金沢中央公園 1982 [参考図版] Photo © F. Nakaya

1970年の大阪万博でペプシ館パビリオンを人工霧で覆ったプロジェクト以来、科学者やエンジニアと協働し「霧の作品」を発表してきた中谷芙二子。1984年のルイジアナ国際河川博覧会の「水の彫刻」コンペに入選しながら実現しなかった6台の大型ダンプカーによる“Louisiana Dump”の恵比寿ヴァージョンを第8回恵比寿映像祭にて披露します。切り取られた自然の具体的な一部として、環境条件を鋳型に、風がきままに掘っていく「霧の彫刻」が、昼と夜の光によって変幻していく様子をお楽しみ下さい。

NEWS 2

上映

**ヨーロッパ実験映画の先駆、シャンタル・アケルマンの
 最新作にして遺作、《No Home Movie》ジャパンプレミア上映！**



■シャンタル・アケルマン《No Home Movie》
 Chantal AKERMAN, *No Home Movie* / 2015 / 115分 /
 フランス語(英語・日本語字幕付)
 ①2月11日(木・祝) 15:00～ ゲストスピーカー：ニコラ・エリオット
 ②2月16日(火) 18:30～ ゲストスピーカー：斉藤綾子

第19回カイエ・デュ・シネマ週間「シャンタル・アケルマン追悼特集」
 2016年2月5日(金)～7日(日)、12日(金)～14日(日)
 アンスティチュ・フランセ東京(主催)と連動して活動の軌跡を辿ります。
 協力：アンスティチュ・フランセ日本

NEWS 3

展示／上映／
シンポジウム

展示・上映・シンポジウムで横断的に「ランドアート」×「映像」を再考！



ロバート・スミソン《マンハッタン島を周遊する浮島》2005
Estate of Robert Smithson, Courtesy James Cohan Gallery, New York/Shanghai and Electronic Arts Intermix (EAI), New York.

展示では、ロバート・スミソンによって構想された《マンハッタン島を周遊する浮島》を後に実現化し記録した映像作品、スミソンの3作品を記録したジェーン・クロフォード&ロバート・フィオーリによる映像作品《ランダウン》を紹介。また60年代末から70年代にかけて起きた潮流であるランドアートとその時代を再考するジェームズ・クランプの新作ドキュメンタリー《トラブルメイカーズ ランドアートの話》を上映。さらにシンポジウムでは、国内の専門家とともにランドアート再考の意義を検証します。

- ジェーン・クロフォード&ロバート・フィオーリ
《ランダウン》1994/シングルチャンネル・ビデオ
- ジェームズ・クランプ 《トラブルメイカーズ ランドアートの話》
/2015/72分/英語(日本語字幕付)
- シンポジウム「ランドアートの話」
平成28年2月13日(土)17:30-19:30 日仏会館ホール
平野千枝子(山梨大学准教授、美学・美術史家)
上崎千(慶應義塾大学アート・センター所員[アーカイヴ担当])
岡村恵子(恵比寿映像祭キュレーター及び東京都写真美術館学芸員)

NEWS 4

展示

嗅覚・聴覚でも楽しむフェスティヴァル。
昆虫の創造力がつくるインスタレーションも登場！



上田麻希《嗅覚のための迷路 vol.1》2013

自然の創造力を提示するバイオアートの銅金裕司、虫の足音を爆音で聞かせる佐々木有美 + ドリタ、嗅覚体験が主役の作品の上田麻希まで、今までの視点を変え、また視覚を聴覚・嗅覚に置き換えて楽しめる作品が様々に登場します。



銅金裕司《シルトの岸辺～動く絵》2010[参考図版]

NEWS 5

ライブ

サイト・スペシフィックなライブ・イベントで異色アーティストたちによる
奇跡の共演！



平井優子《猿媯-The face of strangers》2014年[参考図版]
Photo: Akiko Nogami

■動いている庭—ライブ編

出演: SjQ++、入江陽+銅金裕司、古館健、The SINE WAVE ORCHESTRA

平成28年2月19日(金)開場17:30/開演18:00[終演20:00予定]

■動いている庭—パフォーマンス編

《猿媯-The face of strangers- Hybrid version》

出演: 平井優子、山内朋樹、古館健、原瑠璃彦

平成28年2月20日(土)開場15:30/開演16:00[終演18:00予定]

会場: ザ・ガーデンルーム(恵比寿ガーデンプレイス内)

前売: 1,500円 当日: 2,000円/定員150名/自由席/

入場整理番号付